

汚染水対策の進捗状況 及びリスクマップ

2015年12月11日
東京電力株式会社

2-1 リスクマップ

【参考資料】

参考2-1 リスクマップ詳細

参考2-2 進捗状況一覧表

2-1 リスクマップ

■ 2013年12月に汚染水処理対策委員会にて取り纏めた、「東京電力（株）福島第一原子力発電所における予防的・重層的な汚染水処理対策～総合的リスクマネジメントの徹底を通じて～」の中において「リスクマップ」を作成。

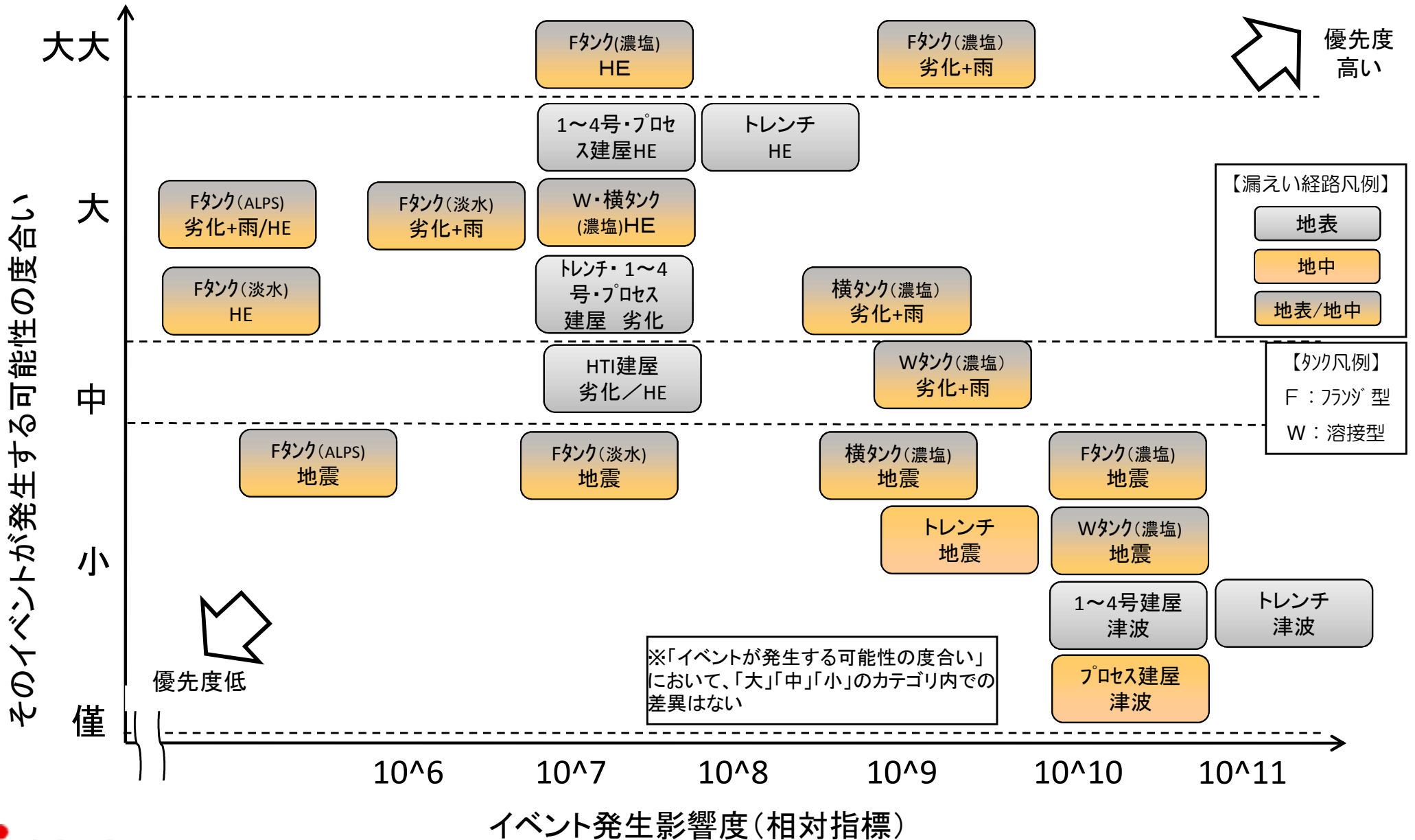
■ これまでの汚染水処理対策委員会において、汚染水対策の進捗を反映し、開催時点のリスクマップを整理し、提示してきた。

■ 更に汚染水対策の進捗を反映し、現時点（2015.12）のリスクマップを整理し提示する。前回会議（2015.7）以降の主な対策の進捗は以下の通り

- ① 海側遮水壁の閉合により、護岸付近の地下水から海洋への流出が抑制
- ② 堰内雨水処理能力の増強により、降雨時にも堰内に空き容量を確保し、漏えいリスクが低減
- ③ B/C排水路最下流部のゲート電動化により、地表での大量漏えい時の海洋流出リスクが低減

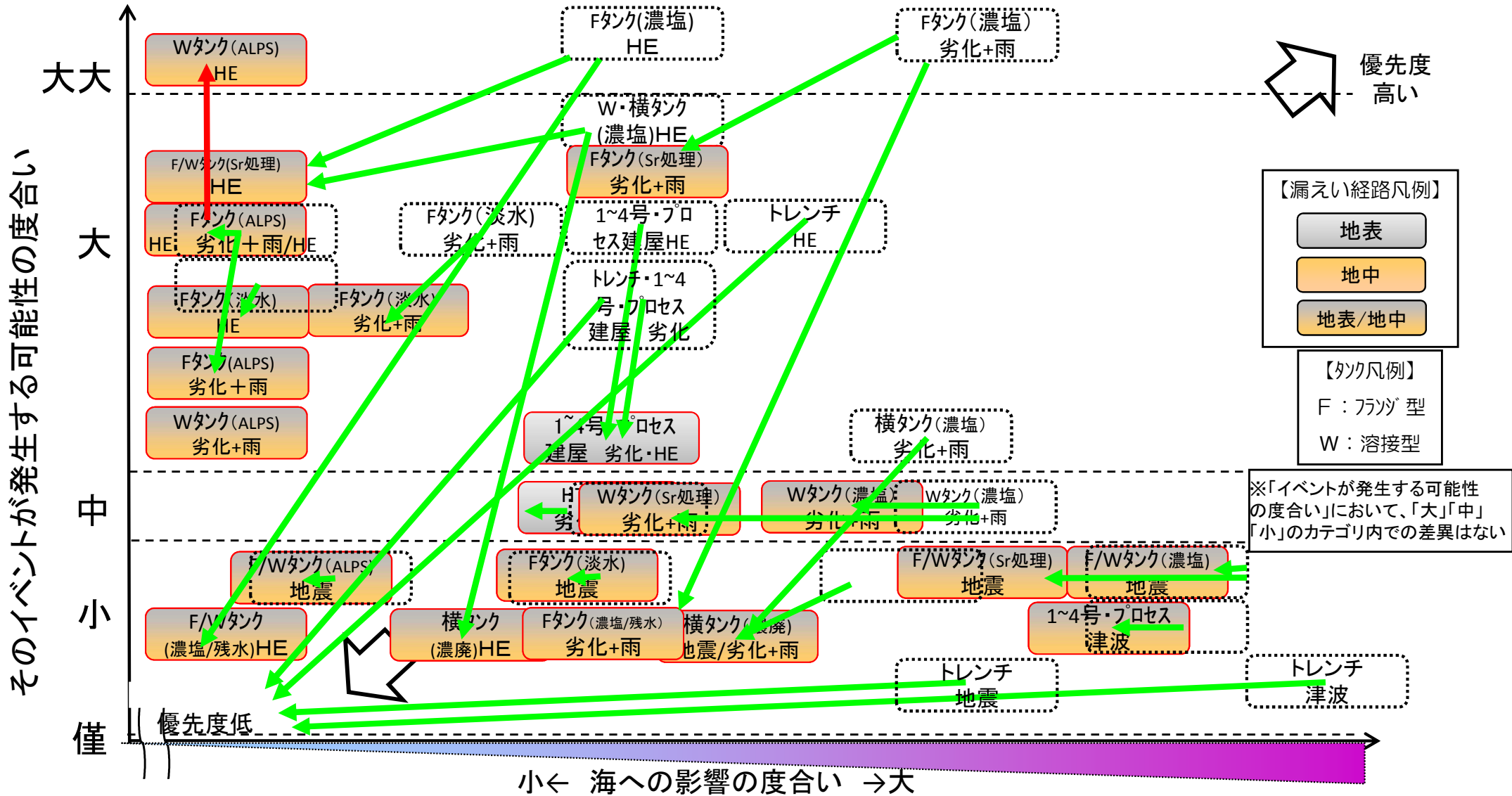
(1) 汚染水リスクマップ／汚染水処理対策委員会での2013.12当時の整理

汚染水イベント発生リスクマップ【2013.12時点】



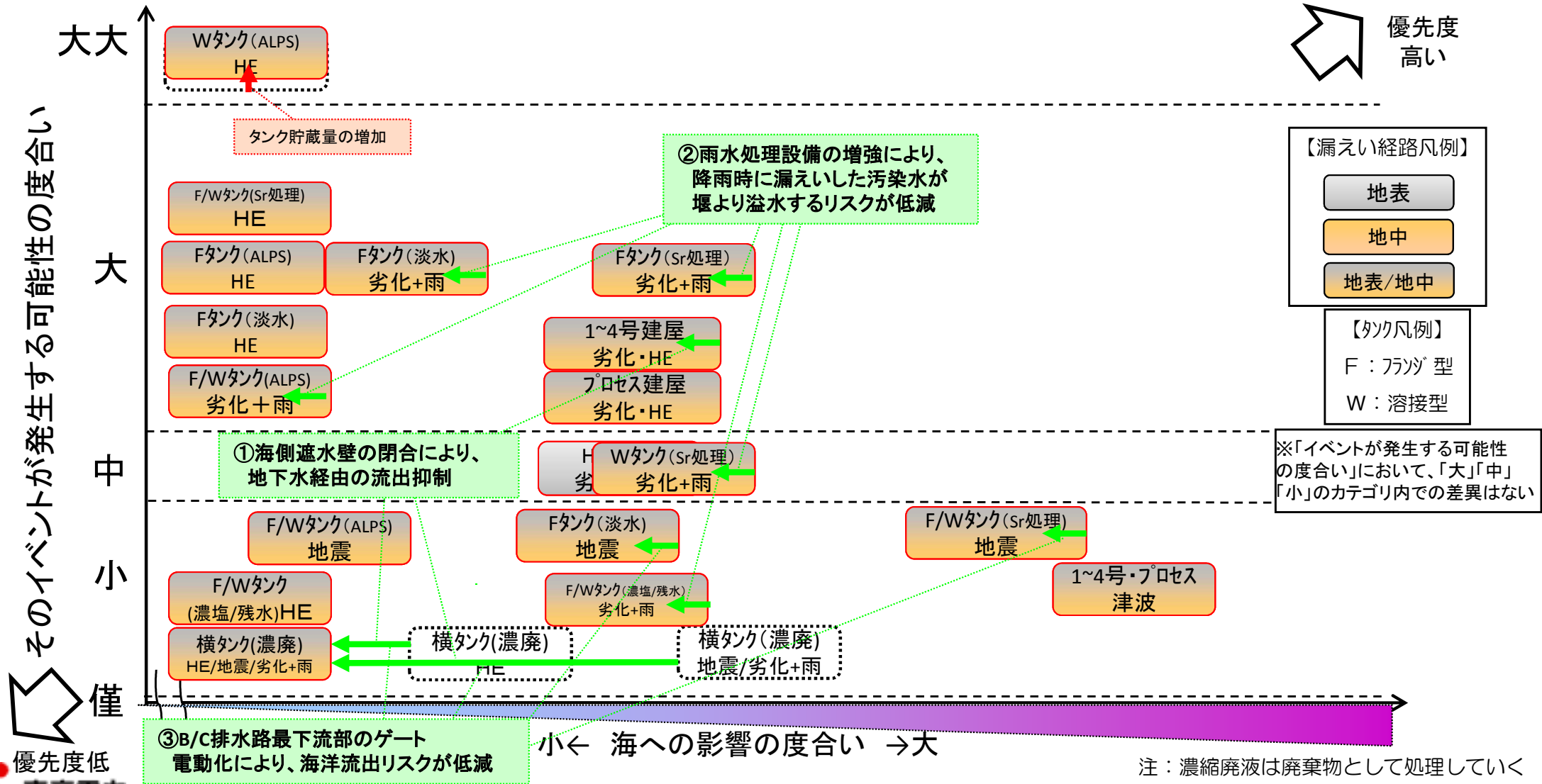
(2) 汚染水リスクマップ／汚染水処理対策委員会での2015.7時点の整理

汚染水イベント発生リスクマップ【2013.12→2015.7の変遷】



(3) 汚染水リスクマップ／2015.12時点の整理 【2015.7→2015.12の変遷】

- ①海側遮水壁の閉合により、護岸付近の地下水から海洋への流出リスクが低減。
顕在化した事象（汚染の確認された地下水流出）も抑制される。
- ②堰内雨水処理能力の増強により、降雨時にも堰内に空き容量を確保し、漏えいリスクが低減。
- ③B/C排水路最下流部のゲート電動化により、地表での大量漏えい時の海洋流出リスクが低減。



注：濃縮廃液は廃棄物として処理していく